

こんにちは。そしきクンだよ。毎月、旭川支部の皆さんのところ取材訪問して、その取材結果を紹介してるんだ。皆さんのお仕事のこと、趣味のこと、その他いろいろ聞かせて下さいね。これを見て会員同士の取引や交流が活発になってくれると嬉しいな！組織委員会プロデュース、そしきクンが行く！です。今月のテーマは”贈答・印刷業”だよ。

渡辺贈商(株)		代表取締役 渡辺 良一さん	所在地 / 旭川市東4条3丁目1-18 電話 / 0166-24-2588
企業データ		業務内容	主力商品・サービス
設立 / 1970年4月	資本金 / 1500万円	各種カレンダー・タオル・販促品	各種カレンダー・タオル数品・ライター・うちわ
従業員数 / 18名	入会 / 2002年3月	シャディーギフト商品	贈答品・記念品
紹介者 / 黒川ペニヤ商会	北村志保さん		企業の販促品などの卸・小売
			各種商品の印入れ作業全般

カレンダーに思いを込めて40年...



Q1: 趣味はなんですか？

特にこれという趣味も持たず、過ごして来ました。少し美味しいものを食べ、少し旨い酒があれば十分。しいて言えば、相撲や野球の観戦でしょう

Q2: 御社の魅力とは？

または御社にお仕事を願うとどんないい事がありますか？

当社は、低価格で高い利用価値のある、カレンダーを主力商品として40数年に亘り各企業さんとお取引をさせて頂いております。さりげなく癒しと安らぎある カレンダー類を全国のメーカーより選抜し取り揃え、北海道地図と各市町村の人口統計を載せたオリジナル物も人気商品です。

Q3: 御社のビジネスの転機とは？

勤務先のカレンダー販売会社の倒産により、脱サラで現在の会社を起しました。カレンダー販売は全て外商で、来客依存型とは異なり、積極的に仕事を求め続ける行動型セールスであり、自分の性格にあったように思います。

Q4: 御社のこれからの抱負や目標をお聞かせください

長年扱いたれたカレンダーを中心にタオル、ギフト商品の充実を図りたい。息子も会社を手伝う様になり、これまで通り、堅実に、誠実に、信頼いただける会社を目指して、進んでいきたいとおもいます。同友会で学び、皆様から何時の日か、お声をかけて下さる事を念じております。

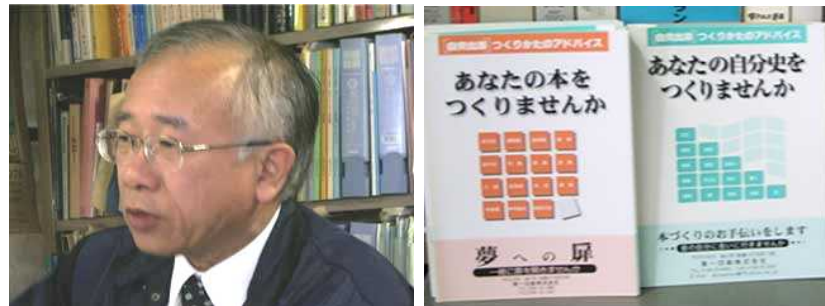
そしきクン(取材者)よりひと言

何気なく、毎日目にするカレンダー。このカレンダーに思いを込めて40数年。記事にもありますように、淡々と話される渡辺社長から、堅実さや誠実感があふれ出ているのを強く感じ、息子さんが会社に入る事になり、同友会に入会を決めたとのこと。堅実な中にも積極的に情報を求めるバイタリティーさも社長の魅力であり、会社をここまで盛り立ててきた原動力ではないでしょうか。ひとつの商品を掘り下げ、負けない商品に育てる、企業繁栄の基本を再認識させて頂きました。ありがとうございました。

柳原工業(株) 代表取締役 柳原正司

第一印刷(株)		代表取締役 則末 尚大さん	所在地 / 旭川市1条通14丁目右10号 0166-23-4962
企業データ		業務内容	主力商品・サービス
設立 / 1960年4月	資本金 / 1000万円	印刷全般、本づくり	自分史、記録誌などのお手伝いと、ごく普通の印刷物を安い方法で作れるよう努力を続けたい。
従業員数 / 10名	入会 / 1977年8月	情報のデータベースづくり	
紹介者 / 事務局	西谷博明さん		

”No.1じゃあなくてオンリー1” 自費出版ならお任せ！



Q1: 趣味はなんですか？

ありきたりですが、音楽や演劇を鑑賞したり、山に登ったり、本を読んだり、というところ。そこに酒があったり、良き人がいたりすると「グッド」で

Q2: 御社の魅力とは？

または御社にお仕事を願うとどんないい事がありますか？

社員は皆まじめです。自己利益の目端は利きませんが皆、お客様の気持ちを大事にしています。同業者とのネットワークを大切にしているので、自社で製造できないものについてはお客様のニーズに適った価格と製造力を持った同業者を選択できます。

Q3: 御社のビジネスの転機とは？

転機というのは特にありませんが、先代から仕事を受け継いだときでしょうか。社員の入社・退社も、新しい人生の出会いを共有しようという意味で心は原点に戻ります。

Q4: 御社のこれからの抱負や目標をお聞かせください

背伸びせず、真面目さと日常の努力だけを財産にこれからも地道に事業を続けます。当社が得意とする自費出版は利益より苦勞のほうが大きいけれど、好きな道なのでお客様の良き相談者になれるよう努力を続けたいと思っています。ご希望の方には「自費出版のためのパンフ」、小冊子ですが差し上げています。

そしきクン(取材者)よりひと言

近年、にわかに増えている自分の生涯を綴った自分史。その自分史出版のオーソリティである則末社長に取材できて光栄でした。親から子へ、子から孫へと代々伝わっていく血筋・伝統・文化・風習…。著名な方だけでなく、普通の庶民の方が歩んできたさまざまな人生、栄光や喜び、悲しみや挫折、気付きや想いを活字にして残す。そのような大切なことをお手伝いをされています。どんなにデジタル化が進んでも印刷された”書物”には到底かなわない。伝わってくる”重み”が違う。印刷されたある方の自分史を手にし、改めてそう強く感じました。

デジタル・ウィザード 代表 和田徳久